

かがやけコトニ実行委員会

屯田兵村と兵屋

集客よりも

地域住民の参加を大事に

琴似屯田兵入村130周年と「屯田兵村と兵屋」北海道遺産選定を記念して、2005年8月、「かがやけコトニ」屯田兵の里まつり」が札幌市西区琴似を中心に開催された。

主催したのは、琴似連合町内会などの地元町内会のほか、琴似屯田子孫会などの市民団体、琴似小学校や二十四軒小学校、琴似商店街、JR琴似駅や三角山放送局などの企業からなる、「かがやけコトニ実行委員会」。

琴似屯田兵の記念行事は、50年目・100年目にも行われてはいたが、いずれも行政が主導だったのに対し、今回のまつりは、地域主体で企画。しかも、よそからどれだけ人を呼べるかを意識し企画するイベントが多い中、このまつりは、集客よりも地域住民の参加に重点

を置き、構想を練ったという。上田

一男実行委員長は、「参加を大事にしたのは、先人の歴史を知ること、この地に住む人が、もともと琴似を好きになってくれればと強く思ったからです。そして、琴似に住む子どもたちが、将来ほかの場所で活躍しても、自分のふるさととここだと思えるような地域にしたいと願うからです」と話す。

地域住民の参加は、大人500人、子どもを合わせると約2000人にも及び、文字通り、まち全体で盛り上げに協力した歴史文化イベントとなった。

屯田兵の歴史は

琴似の未来を

明るく照らす

「かがやけコトニ」屯田兵の里まつり」の催しのひとつである琴似の歴史展「里の歩みそして夢」は、琴似在住の教員OBが中心となっ

て作り上げた。一方、「浄恩寺」でのジャズコンサートは、「西区ボランティア」もりあげ隊」の参加があつてこそ催し。「里まつりの成功は、地域の人と人のつながりなくしては、果たせなかった」と上田実行委員長が言うとおり、計25にも及んだ催しの影には、人のつながりが確かに見える。

まつりの成功を機に、次なる気運も、もう出始めている。上田実行委員長は、「20年後の150周年記念は、次の世代が主役。今回のまつりで発見した人のつながりを未来へ向けて続けていく」と力強く話す。

兵屋周囲のイボタ生垣を、地元町内会が剪定することになった。小学校と町内会が協働で郷土史の本を編さんする予定も立てられている。琴似の人のつながりは、まつりを終えた後もしっかりと健在だ。



2005年8月27日に開催された「かがやけコトニ～屯田兵の里まつり」は、屯田兵パレードからスタート。琴似のまちは、たくさん見物客で賑わいを見せた。まつりには、地元の子どもたちも積極的に参加。写真下は、琴似小学校の児童による壁新聞「屯田兵の歴史」



琴似のまちと人を想って、「屯田兵の里まつり」を企画・開催。